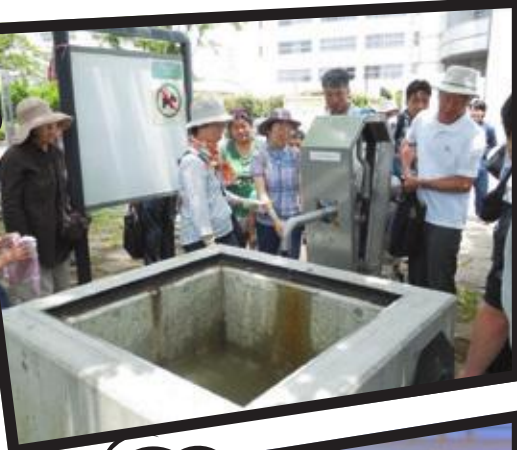


公益信託あだちまちづくりトラスト

このゆび とまれ

2018.3
No.27

<http://adachi-trust.jp>



あなたの
まちづくり
活動を
応援します。



第9回 助成活動団体成果報告会

平成 29 年度トラスト助成活動団体成果報告
テーマ別パネルディスカッション（活動団体交流）
開催日時：平成 29 年 10 月 22 日（日）午後 1 時 30 分～4 時 30 分
開催場所：東京電機大学 東京千住キャンパス 1 号館 100 周年ホール

Contents (目次)

P.3 トラスト助成活動団体成果報告発表
◎テーマ：住みよいまちづくり

団体名	発表内容
西新井大師周辺地区まちづくり協議会	特別景観形成地区指定に向け申請書を提出
佐野町会・自治会連絡協議会（資料報告）	地下鉄8号線の区内延伸PR活動

P.5 ◎テーマ：安全・安心のまちづくり

団体名	発表内容
梅田BW会	花いっぱい公園で、安全・安心のまちづくりに寄与
足立区多機能サービス連絡会	高齢者が歩いて暮らせるまちづくりへの実践・調査・研究
あだち防災プロジェクト	防災をキーワードに、新たな地域のつながりを創出

P.7 ◎テーマ：活力あるまちづくり

団体名	発表内容
竹の塚中学校活用推進委員会	オリジナルキャラクター「竹坊」とともに地域を活性化
千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会	コミュニケーションの場作りで、千住のまちを活性化！

P.9 ◎テーマ：歴史・文化のまちづくり

団体名	発表内容
200事務局	千住の文化に根差した組織間連携の可能性を発信
あだち銭湯文化普及会	足立区の銭湯文化を守る普及・啓発・人材育成活動

P.11 ディスカッション

P.13 全体講評

P.14 閉会挨拶
アンケート集計結果

P.15 トラストの申請方法

あだち まちづくり トラスト

「あだちまちづくりトラスト」は、自分たちのまちを、安全で安心して快適に暮らせる魅力ある足立にするアイデアあふれる自主的なまちづくり活動を応援しています。
「あだちまちづくりトラスト」は、個人や団体等からの寄付金を公益信託法に基づき信託銀行に委託し、その運用益等でまちづくり活動に助成しています。
この制度は、昭和63年からスタートし、信託銀行に運営を委託しています。
代表受託信託銀行：三菱UFJ信託銀行(株)
詳しくは、公式ホームページ <http://adachi-trust.jp/> をご覧下さい。



●助成新基準 (H28.10.31 から施行)

助成コース名	活動内容	助成対象者	助成限度額	助成回数
学生のまちづくり活動	調査・研究・活動・整備事業	中・高・大学生	10万円以内	1回限り
身近なまちづくり活動		個人又は団体	30万円以内	5回まで
まちづくりはばたき支援			総額500万円以内	5回まで
まちづくりイベント整備活動	調査・研究・活動・整備事業・イベント		300万円以内	1回限り
街並み空間・自主管理歩道等	整備事業	個人又はマンション管理組合等	300万円以内	制限なし

開 会 挨 拶



大熊 喜昌 運営委員長
まちづくりカウンセラー

足立区まちづくりのさらなる盛り上がり期待

昭 和63年発足の「まちづくりトラスト」は、約30年間に渡り足立区のまちづくりに対する助成を行ってきました。助成件数は300件を超え、助成の総額は30年間で8億円以上、年平均2,000万円以上の助成を続けてきました。これは、画期的なことと、東京都でも続く「まちづくりトラスト」としては、非常に成果のあがっているものだと思います。

変化に対応するトラスト助成

昨今は、社会の状況の変化により、まちづくり活動の範囲が、ハードだけにとどまらず多岐にわたっております。トラストも、その変化に対応していくため、一昨年から色々と改善の方向を探ってきました。その改善案が、昨年度まとまり、29年度には、新しい制度で、運営して行くことになりました。今後、応募者の質、量ともに拡大していくと思われまます。また、そのような状況のなか、この報告会の果たす役割が、今後、非常に大きくなっていくのではないかと感じております。助成を受けた方が、活動内容の意図をこの会で報告していただき、意見を交わしながら、足立区のまちづくり全体が、ますます盛んになっていくよう期待したいと思います。

委託者を代表して挨拶



足立区 都市建設部
市街地整備室長
土田 浩己 さん

協創のまちづくりを实践、ひと・まち足立のまちづくりの参考に

ま ちづくりを行うにあたって、これまで多くのトラスト助成を行い、足立区の文化的活動などに大変役立つと考えております。最近では保育や福祉という需要があり、そのニーズを受け、平成29年に新制度を実施させていただきました。その結果、より多くの方からの申請を受けています。

30年先を見据えたまちづくり

一方で、昨年度、足立区におきましては、足立区基本構想を策定させていただきました。これは30年先を見据えて、足立区の目標を「協創力でつくる活力にあふれ進化し続けるひと・まち足立」としております。特にこの中で「協創」という言葉がありますが、漢字で書くと、協力の協に創造の創を使っております。この意味するところは、個人、民間企業、団体がつながることにより、新しい課題を、新しい協創力で、解決していくという概念でございます。今回、9団体の皆様に報告していただくわけですが、そういった協創で作る考えを、実践している団体ではないかと感じております。皆様の報告を拝聴させていただき、今後の足立区のまちづくりの参考になりたいと思います。

トラスト制度改正について



足立区 都市建設部
市街地整備室
まちづくり 課長
會田 康之 さん

助成制度の細分化で、より使いやすいトラストへ

平 成29年度のトラスト制度の改正について少しご説明をさせていただきます。従来、3つの制度がございましたが、平成28年10月31日施行で、平成29年度の助成制度から新たに5つの項目に細分化し、より使いやすいトラスト助成とさせていただきます。新たに学生のもの、まちづくりを継続してできる総額500万円以内で5回まで使えるもの、イベントと整備活動を主とするものなど、小分けにして使いやすいものいたしました。(右ページ参照)

制度改正により助成件数が増加

助成件数の推移ですが近年だけで申し上げますと、27年度と28年度の助成件数は共に11件なのに比べ、今年度29年度の助成件数は17件と増加しています。これは、制度改正がきっかけとなり、皆様に幅広く手をあげていただいております。申請をいただいているためと思えます。今後多くの方に、まちづくりトラストを通じてまちづくりに貢献していただき、よりよい足立区をつくっていききたいと思っております。

西新井大師周辺地区まちづくり協議会 特別景観形成地区指定 に向け申請書を提出

西

新井大師周辺地区まちづくり協議会は、景観まちづくり協議会を母体に平成19年に設立、平成26年から3年間は、トラスト助成を受け地元主導の活動を行ってきました。3年間を振り返りながら、昨年度の活動内容を中心に報告させていただきます。トラスト助成3年目の平成28年度につきましては、春の事故ゼロ運動から始まり、ごみゼロ運動、先進地区視察会、行燈祭り、シャッターアートなど、助成1年目、2年目からの継続活動を実施する一方、昨年から検討していました景観ルールを実効性のあるものにする取り組みを重点的に行ってきました。

景観ルールの取り組みについて

竹上 昨年度の景観ルールの検討につきましましては、区の景観計画係、景観計画推進部会の先生方とも調整をさせていただく中で、本年3月末に区長へ特別景観形成地区の申請をしたところです。この景観ルールは、足立区景観計画の特別景観形成地区に指定しようというものです。ルールを地区の特徴ごとに区分し決めていきました。



発表者
竹上 一さん



発表者
田口 行彦さん

田口 今後の活動展開を申し上げます。一つ目は、区が作成する景観ルールについて検討過程で区と調整を行わせていただきます。二つ目は、道路、その他の公共施設整備も環境まちづくりに重要な要素のため、そうした働きかけを行わせていただきます。三つ目は、地域全体として景観まちづくりの意識を啓発していくために新たな活動を企画していきたいと思っております。四つ目は、地域に定着してきた事故ゼロ、ごみゼロ、行燈祭りなどの活動を継続していきたいと思っております。そして、五つ目は、地域活動の新たな担い手を確保、育成していきたいと考えています。



行燈まつり

【資料報告】

佐野町会・自治会連絡協議会 地下鉄8号線の区内延伸PR活動

佐

野町会・自治会連絡協議会は、平成10年から葛西用水沿線地域を中心に地下鉄8号線・有楽町線の区内延伸を目指して、整備促進大会、署名活動、大臣要請を含むさまざまな活動を行っております。

昨年4月、国の交通政策審議会に新たな答申が出され、地下鉄8号線の延伸は意義があると明確に位置づけられました。そのことを受け、佐野町会・自治会連絡協議会では、地下鉄8号線延伸の早期整備実現を目指し、地域住民の気運醸成のため、あだちまちづくりトラスト助成の申請を行いました。助成金27万円につきましては、のぼり旗300枚、のぼりポール250本、懸垂幕2枚の購入に当てております。懸垂幕につきましては、中川東小学校に設置させていただきました。同じく、葛西用水親水水路沿道にのぼり旗を設置いたしました。また、汚れて破損したのぼり旗の取り替えも実施しております。これらは、事業期間終了後も設置を続け、維持管理をしていくことになっております。

延伸後のまちづくりも 見据えたPR活動

懸垂幕、のぼり旗の設置により、地域への地下鉄8号線区内延伸整備促進活動の周知と早期実現に向けた地域住民の気運醸成が図られました。まちづくりへの寄与といえます。また、地下鉄8号線区内延伸が早期実現すれば交通不便地域が解消され、人口の増加によるにぎわいの創出や、駅周辺の開発によるまちの活性化が図られると考えております。

今後の活動につきましては、事業終了後も設置物の維持管理を適切に行い、地下鉄8号線延伸の早期整備実現を目指して、地域住民の気運醸成のための整備促進活動を継続して実施していきたいと思っております。



「懸垂幕」 中川東小学校

特性を生かしたまちづくりで 地域を活性化



コーディネーター
加藤 仁美 運営委員
東海大学 教授

【 地下鉄8号線区内延伸の周知 】

会場より 地下鉄8号線区内延伸について具体的に
にどのようなルートなのか教えていただけますか。

足立区まちづくり課 地下鉄8号線は、有楽町線
の延伸ということで、豊洲から北上し、亀有を通り
八潮を抜けて野田市まで達するルートです。足立区
内は、葛西用水という水路沿いを延伸する区間が、
導入区間と考えております。

会場より エイトライナー、メトロセブンなどの
連携はありますか？

足立区まちづくり課 昨年の5月、答申が新たに
出まして、区内では地下鉄8号線延伸と、メトロセ
ブン、エイトライナーの路線も答申に位置づけられ
残っております。

会場より 足立区の方をお願いですが、地下鉄8号
線区内延伸についての動きやPR自体が、他の地域
に住んでいても、すぐにわかるような情報の提供を
していただけるとありがたいと思っております。さ
らにこれらの情報を共有する活動が足立区内にあ
るのかどうか、お伺いしたいと思います。



足立区まちづくり課 実際に地域では、中川小学
校の体育館で行っています。また、鉄道立体推進室
では、区内のイベントごとにブースを出してPRを
しています。区民まつりでも二日間出していますし、
梅まつりやしょうぶまつり、元淵江公園での光の祭
典など、イベントの時にPRを行っています。しか
し、まだまだ足りないところがあるかと思えます。し
か、引き続き力強く取り組むよう担当に伝えてお
きます。

【 特別景観形成地区指定申請の進捗状況 】

吉満 明子 運営委員 西新井大師周辺地区まちづ
くり協議会への質問です。資料に書かれている区内
の景観形成地区3地区のうち、千住旧日光街道周
辺地区のすぐそばに会社があるものですか、大変
興味を持ちました。今回、「特別景観形成地区」指定
申請書を足立区長に提出されていますが、実際に、
どこまで進んでいるのかを教えてくださいませんか？

西新井大師周辺地区まちづくり協議会 西新井
大師周辺地区は、先ほどお話があった千住旧日光
街道周辺地区とともに、特別景観形成地区の一步
手前の景観形成地区に指定されています。その場
合、地元協議会が、案を作成し区長に申請すること
ができるということが、条例で定められています。そ
の手続きを先日行いました。現在、足立区がそれを
引き取り、検討を進めているところです。西新井大
師周辺地区まちづくり協議会とも調整しながら進
行していて、来年度、景観ルールが確定するスケ
ジュールで動いていると認識しています。

吉満 明子 運営委員 そうなると、来年度、景観
ルールが確定して、その後、たくさんさんの調査など
もとに実際に景観形成が行われるのは、そこからま
た何年か先ということになりますか。

西新井大師周辺地区まちづくり協議会 そうな
ります。基本的には、建築の積み重ねで、だんだんと
形成されていくこととなります。現在、西新井大師
周辺地区の建物は、全部で3000棟ぐらいあり
まして、それが全て建て替わるのには、100年ぐ
らいかかるのではないかと考えています。

講演者
梅田BW会

花いっぱい公園で、安心・安全のまちづくりに寄与

梅

田BW会の活動テーマは、関原中央公園花いっぱい運動です。事業概要ですが、期間は、平成28年9月から翌年8月まで、申請の事由は、地域住民と明るく楽しく前向きに取り組み活性化を図るためでございます。活動場所は、足立区関原中央公園内、まちづくりの効果は、地域の皆さんと共有し安全安心なまちづくりに寄与するということです。

季節ごとに変わる活動内容

平成28年9月上旬から11月下旬、花壇の土、天地返し、天日干し、及び苦土石灰、腐葉土等混合作業の他、チューリップ球根の植え付け作業、バラ園増設などの作業を実施しました。

平成28年12月上旬から翌年2月下旬、事業看板及び注意喚起看板の取り付け作業、バラ花木の剪定作業も実施しました。

平成29年3月上旬から5月下旬、チューリップ・ジャーマンアイリス・バラが開花、秋の草花の種まきの育成とポリポット移植作業も実施しました。

平成29年6月上旬から8月下旬、チューリップ球根を掘り起こした後、水洗いをして天日干し作業、ジャーマンアイリスの花茎、葉の剪定作業などを



発表者
柚木 実さん

実施しました。見事に草花が開花し咲き誇っている姿を見ると努力したかいがありました。同時に皆さんの目を楽しませることができました。

最後に、その他の作業についてご説明いたします。公園内外の清掃、除草、殺虫殺菌剤の散布、散水、剪定、追肥作業は定期的に実施いたしました。春秋のごみゼロ運動は、老人会と連携し実施いたしました。

今後の活動方針としては、今回は一年草を中心に実施しましたが、非常に労力を要するため、今後は、宿根のバラ、牡丹、紫陽花など、多年草エリアを設け充実させたいと思います。無論、四季折々の一年草も引き続き盛り込み、地域住民の皆さんの目を楽しませる工夫をし、花いっぱい運動を継続的に推進して参りたいと思います。



関原中央公園花いっぱい活動

足立区多機能サービス連絡会

高齢者が歩いて暮らせるまちづくりへの実践・調査・研究

足

立区多機能サービス連絡会は、区内にあります小規模多機能型居宅介護施設と看護小規模多機能型居宅介護施設の全16事業所からなる会です。会としては、西新井大師の商業会さん、商店街振興組合などの協力を得てトラストへ応募しました。

現在、足立区には、3万人ほど要介護、要支援の方がいます。こういった方々は、あまりまちを歩けない状況にあり、そこで、皆でバスを利用して買い物と一緒にいこうと、毎月一回、東武バスをお借りして買い物をしています。

高齢者のための地域資源マップ作り

今回の活動では、地域資源マップ作りも行いました。高齢者の場合、特に重要なのが、道路です。横断歩道は、歩行速度秒速1メートルに設定されていますが、要介護の高齢者は歩くのが遅く渡れない場所があります。次にトイレ、多目的トイレでないと思えない方が多いので、どこにあるのかを調べました。公園のトイレはバリアフリー化が進んでいますが、入り口に柵があり、奥の快適なトイレにたどり着くのが大変ということがわかるなど課題も見えてきました。

活動を通して、全国フォーラム、介



発表者
川合 健一さん



発表者
馬場 美彦さん

護系の学会、認知症介護に関わる人たちの研究会などで発表する機会をいただきました。また、足立区の地域包括ケアシステム推進課の方の協力を得まして多機能サービス連絡会主催の地域ケア会議も開催しました。

地域資源マップとして必要なのは、高齢者の場合、一人ひとりの要介護の状態にあった資源マップです。今回、認知症の高齢者も安心してまちに出られるということがわかってきましたので、今後も活動を継続していきたいと考えております。



参加者とボランティア 西新井大師にて

あだち防災プロジェクト

防災をキーワードに、新たな地域のつながりを創出

私

私たちは足立区内で活動する8団体が、防災をキーワードに集まり、地域交流や乳幼児、高齢者、障がい者支援など、それぞれに強みのある分野をいかし、次世代交流、地域ネットワーク作りを目的に活動しています。

助かるためのノウハウを学び、助け合える地域のつながりの構築

防災に関する体験学習として、災害時を想定し防災訓練を競技形式で行う、防災運動会を実施しました。また、教員、保育士、福祉施設や地域センター職員などを対象に地域連携のなかで考える防災をテーマに研修会を開催しました。

東日本大震災から6年、3月11日を忘れずに被災地へ心をよせたいと思い、朗読会と講演会を開催し、5月には、公園で防災訓練も行いました。次に乳幼児連れのご家族を対象に親子で助かり生き残るための親子防災カフェを開催し講師を囲み月齢により変わる非常食について話し合い、アレルギー対応非常食の試食も行いました。防災マップ作りでは、足立区災害対策課長を講師にワークショップを開催しました。

昨年度の活動には、延べ573名が



発表者
小林 恭眞さん



発表者
鈴木 圭子さん

参加されました。こうした活動が、個人の防災力を高め、地域で力を合わせ、行政とともに地域防災を進めていくことで災害に強いまちづくりにつながるかと思えます。

今年度も防災運動会と防災訓練を継続し、新たに自然災害への迅速な対応ができる体制作りの講演会、乳幼児連れのママを対象とした防災ママワークショップ、そして、足立ジュニア防災士研修会の開催します。中学生高校生を主な対象に防災体験学習を行い、足立ジュニア防災士として地域防災を担う一人として自覚を持つてもらおうことを目指します。



体験型防災訓練

安全・安心のまちづくり・意見交換

福祉、花づくり、防災、それぞれの形で安全・安心を創出

【創意工夫の花いっぱい運動】

会場より 先ほど、一年草の花が多く、大変労力を要するため、今後は多年草を増やしていくということでしたが、花を選ぶ際の基準はあるのでしょうか？

梅田BW会 私たちが扱うものは、種まきから始めるものが多く、種をまいてポリポットに移設したりと大変労力がかかります。年間で1000鉢ぐらい作りませんが、作業にとっても時間がかかり労力を要するため、バラの花や、牡丹、紫陽花などのような多年のものを植えたかどうかと話し合いをしています。

吉満 明子 運営委員 同じく梅田BW会に伺いたいと思います。お花をメンテナンスする知識というのは、どこから得ているのか教えていただけますか？

梅田BW会 足立区の花いっぱい運動で、講習会が春と秋に2回あります。そこで、講師の方から教わるほかは、独学になります。経験を積みばなんとかなるのではないかと思います。やはり、土作りが一番大切で、土を一生懸命作れば、草花はどんどん成長していくと思います。



【乳幼児ママの防災ワークショップ】

会場より あだち防災プロジェクトの方にお聞きします。先ほど、乳幼児連れのママを対象にした防災ワークショップを、熊本地震での被災体験をもとに、子連れママが考え、備えるべき防災をテーマに実施するとのお話がありました。こちらはどのようなものなのでしょうか。

あだち防災プロジェクト 乳幼児連れのママを対象にした防災ワークショップは、実際に全国を回っている講師の方をお招きしてのワークショップとなります。

【16事業所が登録し活動】

加藤 仁美 運営委員 足立区多機能サービス連絡会に質問させていただきま。福祉のまちづくりがこれから増えていくと思っていますので、非常に感銘を受けました。連絡会の構成について、もう一度、ご説明を願えますでしょうか。

足立区多機能サービス連絡会 足立区多機能サービス連絡会は、介護保険指定を受けております小規模多機能型居宅介護施設、介護小規模多機能型居宅介護施設、この2種類の足立区内全16事業所が登録して活動している団体になります。

竹の塚中学校活用推進委員会 オリジナルキャラクター「竹坊」 とともに地域を活性化



発表者
荻谷 佳世子さん

竹

の塚中学校活用推進委員会は、学校から発信するまちづくりをキーワードに、竹の塚中学校校舎の活用、地域の活性化に寄与する活動を展開してきました。



「竹坊」

本日は、5月3日に行った、竹の塚中学校西側校舎にオリジナルキャラクター「竹坊」、そして、足立区のキャラクター「ビュー坊」などを貼り付けた活動の動画をご覧いただきたいと思えます。ここで登場する「竹坊」は、本校の昨年度の生徒、1年生から3年生までの全ての生徒が美術の時間にデザインを考案しました。そして、第3次審査を受けて決定したのが、今回ご覧いただく「竹坊」でございます。本校や地域の特性、そして、キャラクターの持つ役割などを皆で考え、それらを配慮して作成したのが「竹坊」です。できることなら、熊本の「くまモン」のように、竹の塚の「竹坊」ということで、これからどんどん宣伝していきたいと思っております。

愛されるキャラクターへ 竹の塚警察とも連携

現在、本事業の取り組みは、竹の塚警察とも連携しております。竹の塚警察署が発行した防犯ニュースには、「初めまして竹坊です。僕は、竹の塚中学校で生まれました。これから竹の塚警察のキャラクターとしても、いろんな所で活躍します。」と紹介されました。来る11月23日、勤労感謝の日には、竹の塚警察、そして本校生徒、地域の皆さまと一緒に、防犯活動のために、この「竹坊」を使ったプレートを様々なところに設置する準備を現在行っております。今後「竹坊」が、竹の塚地区に愛されるように事業を展開、推進していきたいと思えます。本日は、ありがとうございます。



竹の塚中学校西側校舎窓の活用

千住ヤツチャイ大学プロジェクト実行委員会 「コミュニケーションの場作り で、千住のまちを活性化！」



発表者
能見 ゆう子さん

千

住ヤツチャイ大学プロジェクト実行委員会は、千住ヤツチャイ大学を運営し、空き家の再生やアートと音楽を軸に千住と他地域とのつながりを作るイベント、新たな文化接触を生むイベントを実施しています。

28年度の活動については、千住四丁目にある空き家を改造したイベントスペース「たこテラス」を拠点とし、ワークショップの開催、展示などを行いました。ワークショップでは、林加奈さんの読み聞かせ会、日の出町団地に住むアーティスト大槻泰永さんのライブ、パン作り、テニススコーツさんによる音楽ワークショップも開催しました。

また、たこテラスをアーティストさんに活用していただいて、インスタレーションの展示も行いました。大崎晴地さんの「障害の家」は、たこテラスを改造して、障害とはなにかを考える場を提供するアートの展示。アーティストによる古民家の新しい活用の可能性や新たな文化との触れ合いを地域の方に体感していただけたと思えます。

地域のつながりでイベントを開催

続きまして、千住地域を活用したイベントワークショップについて、安養院

で無声映画上映会を開催、北千住にある音楽スタジオでは、リズムワークショップを行いました。音楽シンポジウムでは、過去現在未来の日本音楽文化を語る会を、ピアニスト、評論家、音楽家の方をお招きし、お客様とともに音楽論を行いました。

外部イベントへの出店ですが、墨田区役所の主催する「隅田川森羅万象墨に夢」に出店しヤツチャイ大学を知ってもらう機会がありました。

千住地域の空き家を中心とし、子どもたち、メンバー、千住地域の住民、外部講師との交流を行い、外部イベントにも参加することにより、ヤツチャイ大学の認知が深まったと思われれます。さらに、そこで新たな化学反応の可能性が生まれたので、今年度もたくさんさんのイベントを開催する予定です。



ワークショップの開催

人、団体、組織の連携で 新たな活力を生み出す

【地域との連携で紡ぐ「竹坊」の未来】

浅香 孝子 運営委員 竹の塚中学校活用推進委員会様にお聞きしたいことがあります。この度、竹坊が地域に公表されたことは、大変いいことだと思います。電車から見えるという利点はありますが、校舎の壁に貼っただけでは、「竹坊」は、しゃべってはくれません。この「竹坊」を使って、現在、どのような活動をしているのかお聞かせください。

竹の塚中学校活用推進委員会 現在、竹の塚警察と連携して活動しています。今年には竹の塚地区でも、犯罪防止、抑止ということに非常に力を入れています。振込詐欺であるとか、自転車泥棒であるとか、また、ポイ捨てや、まちの景観などに関して、子どもたちが「竹坊」のプレートを持ち、地域の方々、警察の方々と一緒に、勤労感謝の日に、竹ノ塚駅を中心とした地域にどんどん取り付けていこうというものがあります。今年度については、そのような取り組みを行っております。

浅香 孝子 運営委員 今後、盛り上げていくにはどうしたらいいのか、その点もお聞かせいただけますか。

竹の塚中学校活用推進委員会 先ほど、くまモンの話もしましたが、竹坊の着ぐるみを作り、まちの運動会であるとか、イベントに登場させて、ふれあいのまち、笑顔の多い安全・安心のまちづくりに役立てていこうという計画もしております。

【人、団体、組織、連携が育む新たな可能性】

加藤 仁美 運営委員 千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会様、そして、200事務局様、空き家を活用したイベントや、さまざまなことで、人と人、団体、組織をつなげていっていると感じたのですが、それらを継続させることによつて、組織間の連携を作つていこうと考えられた思いみたいなものがございましたら、お聞かせいただけますか。あるいは、文化を広げていこうというなかで、自然とそのような形になったのでしょうか。そのあたりについて教えてください。

200事務局 千住で活動していると、いろいろな団体があり、地域資源があり、歴史的な資源もあれば、交通の便もよく、大学もありますし、学生さんもたくさんいます。空き家もそうですね。その中で、人にしても、団体にしても、組織にしても、それぞれ活動しているのが自然ですが、ちよつと連携したらもつと盛り上がるし、千住としての発信力が高まるなどというのは、自然の発想で、みなさんそういうアイデアは持っていると思います。実際に行うのは、難しさもあつて、それぞれ皆さん、苦労されていると思うのですが、できることからやってみようというところからです。

千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会 個々の活動というのは、イベントも含めて、だんだん増えてきて、いろいろな交流の芽とか、外部から人が集まってくる可能性なども増えています。ただやはり、学生は、学校を出たら、新しい所に行つてしまふし、子どもたちも成長とともに、まちを離れてしまうことは、

仕方がないと思います。やはり、千住のまちを通過するだけの人も見受けられたりしますが、人間関係のこぼれ球みたいなものを地道に拾つていけたらなという思いをずっと持ち続けております。

加藤 仁美 運営委員 千住がひとつの故郷みたいな感じになるとよいですね。若い方にとつても。



竹の塚中学校西側校舎 カuttingシートの装着



2000事務局

千住の文化に根差した組織間
連携の可能性を発信



発表者
佐々木 誠さん

当

活動のタイトルは、「千住地区における『組織間連携』の実践、新たな次元の活動の核となる記録集の制作」です。助成の概要は、助成額30万円、事業期間は平成28年4月から今年の5月までです。事業内容は、記録集の制作と配付、交流会の実施です。助成金につきましては、記録集の制作費が主になります。

記録集のもととなったイベント、「千住酒合戦200」を2015年に行いました。200年前の千住酒合戦を現代に合わせて再現するというもので、200事務局は、「千住酒合戦200」を実施する事務局として立ち上げました。実行委員会として全体をまとめるのではなく、組織間連携のサポート役の位置付けです。活動目的は、人的交流や団体間の連携を図りながら千住の文化的価値を高める活動の核をつくることです。

千住酒合戦は、1815年に行われた飲みくらべイベントですが、2年後に作品を展示するという文化的行事で、著名な文人が関わり、身分を越えて人々が集まる磁場となったのだと思います。このような文化的な交流を現代の千住に重ね、同じような空気感をつくれなかと考えました。「千住酒合戦200」には、任意団体、企業、店

舗、業界団体などにご参加いただきました。ポイントとして、区民が主導する有機的な連携により千住の文化の底上げができればと考えました。

今後の活動につなげる記録集編集

今回、助成を受けた活動内容は、「千住酒合戦200」の成果を記録集という形でまとめ、今後の活動につなげていこうというものです。記録集には、参加していただいた皆さまとの交流会の記録も掲載しています。

活動を通して、千住にある様々な資源に着目し活動する方がたくさんいることの発見や、そんなクリエイティブな人たちが集まる場づくりをできたことが成果として挙げられます。

今後に関しては、いくつもアイデアが出ていますが、現在、検討中です。様々なつながりを生み出していければと思っています。



「千住酒合戦200」記録集

あだち銭湯文化普及会

足立区の銭湯文化を守る
普及・啓発・人材育成活動



発表者
荒木 久美子さん

私

私たちは、任意団体「銭湯もりあげたい」と足立浴場連合会が協力し、足立区の銭湯文化を残すため平成27年春に発足いたしました。今年度は、銭湯の調査研究活動、銭湯の普及啓発活動、次に銭湯経営者の意識を高める人材育成活動を行いました。

活動の成果物として、「あだち銭湯ハザードマップ」を作成。ご自宅の壁などに貼り活用していただけるよう、銭湯の場所、入浴のマナー、あるいは災害の避難時の心構えなどをポスターサイズにまとめました。折りたたむとB5サイズになります。9月から配布を始め、足立区内の銭湯、区役所のほか、順次、駅や図書館、スーパーなどに置いていきますので、ぜひお持ち帰りください。

銭湯文化を守るための積極的な活動
冬と春に銭湯まち歩きツアーを開催しました。足立のまちを歩き、住民の声を聞き、触れ合う、ダイブな体験ができるツアーです。ツアーで行ったアンケート結果によると、銭湯の女性の利用者が増えていることがわかりました。銭湯の利用者は、男性7割、女性3割と言われますが、20歳から34歳ぐらいの女性の方が増えています。

次に昨年に引き続き銭湯経営者の勉強会を行いました。台東区の銭湯を

見学し、意見交換やコラムニスト石原壮一郎氏による来客者を増やすための講座も開催しました。

メディア紹介では、私たちの活動を、雑誌、ニュース番組、ウェブなどで取り上げていただきました。また、2020年東京オリンピックに向けて訪日外国人を対象に銭湯の魅力を発信していきます。ウェブサイトは、英語版ができましたので、ぜひご覧ください。

今後の活動ですが、調査研究活動、普及啓発活動、人材育成を引き続き行っていく予定です。また、来夏には、銭湯展を開催いたします。この銭湯展では、皆さまの銭湯に対する思い入れなどを、写真、川柳、絵画の形式で一般公募を行うので応募していただけたらと思っております。



銭湯まち歩きツアー

千住の歴史・文化的資源を 活かしてまちを元気に

会場より あだち銭湯文化普及会さんに、質問ですが、ご提出いただいている今年度の申請内容の中に、ウェブによる普及啓発活動とあり、2020年に向けてもよいなと思ったのが、ウェブも含めて、英語版も作られたということでした。これは、今回の助成の中に入っている事業として考えてよいのか、教えていただければと思います。

あだち銭湯文化普及会 英語版に関しても、事業の中に含まれております。新たにメンバーとして、アメリカ人の学校の先生が入りまして、今後は、外国人から見た、銭湯の視点ということで、レポートもどんどん発表していく予定でございます。

加藤 仁美 運営委員 あだち銭湯文化普及会は、銭湯文化を普及啓発させるというのが大きな目的ですよ。先ほどの報告で、来客数も増えたと同つたのですが、銭湯の数自体が増えたりというようなことはないのですか？

あだち銭湯文化普及会 ご期待に添えず、申し訳ございません。銭湯は、減っております。ただ、減つた理由は、やはり後継者がいないという、それだけの理由です。皆さん、やる気はあるのですが、年齢にはやはり勝てないということ、若干減っております。ただ、新しくやる気のある二代目、三代目も出てきておりますので、そろそろ、銭湯数の減少に歯止めがかかるのではないかと考えております。

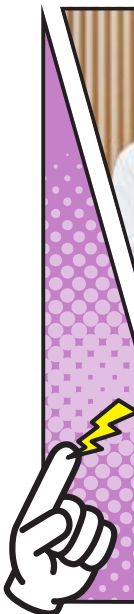
【 銭湯に行ったことがない子どもたち… 】

会場より 千寿常東小学校の3年生の担任をしております。僕は今、授業で銭湯を題材にして総合的な学習の時間という授業のなかで探究的な学習を進めていきたいと考えています。子どもたちにアンケートをしたところ、学年98名いるのですが、半分の子どもが、銭湯に行ったことがないという状況でした。しかし、銭湯に行った子どもたちは、銭湯のよさを感じていて、これを題材に、銭湯を知る活動を通して、千住っていいまちとか、地域のために活動している人たちがいるという思いを実感させたいと考えております。先程の、竹の塚中学校活用推進委員会の活動も見させていただいて、地域に住んでいる子どもたちと関わりを持って、皆さんがされている活動をすすめていくことは、とても大事なことだと思えます。このような活動が小学生や中学生とつながっていくことに対して、皆さんは、どのようにお考えでしょうか。もし小学校なり、中学校からこういう活動をしているので、協力お願いいたしますという話がありましたら、協力していただけるかどうか、ということを知りたいと思ひ質問させていただきます。

あだち銭湯文化普及会 現在も、私は個人的に、「入浴マナーと風呂掃除」という講座を開いております。定員10名なのですが、いつも定員オーバーで断つていような状況です。また、別に商店街活動もしてまして、来週には、十四中のマーチングバンドさんと一緒に、イベントをしたり、高校生と一緒にダンスフェスをしたり、とにかく地域の子どもたちと一緒に

にまちを盛り上げたいなという考えがあります。そのような活動を通して、子どもたちの顔を知る、通りで挨拶ができるようになるということは、非常によいことだと思っております。安全・安心、子どもたちの将来にも役に立つと考えております。

加藤 仁美 運営委員 総合的に私の中では、地域の文化の部分を増やしていくことはとても重要だと思ひますので、ぜひお願いしたいと思います。



「テーマ◎住みよいまちづくり」

■さの 智恵子 運営委員 西新井大師周辺地区まちづくり協議会の皆さま、平成19年度から活動されているということ、特別景観形成地区の指定に向けての取り組みなど、大変すばらしく感銘いたしました。ぜひ、今後も地域住民の方を巻き込んで、このような取り組みを継続していただきたいと思います。

■会場より 西新井大師周辺地区まちづくり協議会の方にお伺いします。かなり行政に近い活動をされていて、専門家の方の関わり、行政のサポートもあつたかと思いますが、どのような連携を取られたのか、お聞かせください。

■西新井大師周辺地区まちづくり協議会 先ほどご紹介したとおり、まちづくり協議会が母体にあります。まして、ある程度具体的なプランがありました。そこで、さらに具体化したいということで、トラスト助成を受けて、始めたところでございます。また、足立区を通じて専門家のお世話にもなっております。

特別景観形成地区の手続きなどは、行政とのやり取りがあるので、役所に行き調整したりしました。それ以外、行燈祭りや、事故ゼロ運動のような活動は、地元主導で行っています。

■加藤 仁美 運営委員 景観ルールを作ることが目的ではなく、地域を元気にしていく、その中のひとつの選択肢として、景観ルールがあると考えてよろしいのです。街並ガイドラインを自分たちで考えるというのには、非常におもしろいなと思いました。

■さの 智恵子 運営委員 次に佐野町会・自治会連絡協議会の地下鉄8号線区内延伸の取り組み、PR活動。区民の悲願である交通空白地域をなくすこと

に向けての気運醸成を意図したのぼり旗や懸垂幕の設置、私も9月3日の促進大会に参加させていただきました。皆さまの思いが、伝わってきたと思っております。

両団体様が、住みよいまちづくりに向け取り組みを継続していただければと思います。



「テーマ◎安全・安心のまちづくり」

■長澤 こうすけ 運営委員 私は、区議会の特別委員会で災害対策の委員長を務めております。安全・安心のまちづくりをしていくには、行政が行う公助、そして、共助、自助が、大切になります。皆さんのような取り組みをしていただくことで、さらに安全・安心のまちづくりが強化されていくのだと感じております。

■梅田 BW 会 私たちが活動を行うにあたり、公園にはいつも私たちがいることになりました。以前に比べて、公園周辺の治安がよくなったと感じています。そこで、もう少し行政に宣伝していただいて、足立区内の公園に花いっぱい運動が広がってほしいと思います。トラストは、いい活動なので、人がたくさん集まるよう行政でも工夫をしていただければと思います。

■足立区多機能サービス連絡会 介護業界全体には、大きな課題として人手不足があります。今回、まちの中に要介護の方をお連れする時、行った先でなにか起きた時に対応する人手が確保できず、参加を見送ることがありました。そこで、まちの方との協力が図れるなら、参加の可能性が広がると感じています。皆さんと上手に連携していければと考えています。

■加藤 仁美 運営委員 要介護の方が、まちを歩いていること自体が素晴らしいと思います。地域の人たちが気づいてサポートするような形になればよいなと思います。

■あだち防災プロジェクト イベントを行う会場の確保が難しいこと、イベントのチラシを、住区センター

などにお送りしても、そこで区民の皆さんに周知していただくことが中々できない状況です。地域の方に広げていただけるとありがたいなと思います。

■長澤 こうすけ 運営委員 お話ありがとうございます。ますます。さらなる効果が出るよう連携を強化し進めていくことが、トラストを成功させるためには必要だと感じました。

「テーマ◎活力あるまちづくり」

■吉満 明子 運営委員 竹の塚中学校活用推進委員会と千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会の報告、両者ともに大変興味深く、住民として引き続き継続していただきたいという思いを強くしました。

両団体には、専門性と感性と物語性の共通点があったと思います。まず、専門性については、窓に「竹坊」のシートを貼る時に職人さんを招き、その技術を中学生の子どもたちに口頭で伝えていました。ヤッチャイ大学では、外部の講師を招き、専門家の方のお話を地域で共有できたことは、すごく意味があったと思います。また、両団体ともデザインやアートというところに焦点を置いた魅力あるまちづくりをされています。中学生の発案から生まれたキャラクター、地域の方々と一緒に作る音楽というものは、とても可能性を感じさせるものだと思います。最後に物語性、竹の塚中学校の場合は、さまざまな世代の方が関わり、地域の警察署とも連携した「竹坊」の物語を、これからどう伝えていくのか、そして、伝わるのが重要だと思いました。ヤッチャイ大学さんは、物語

がいくつもあり、そのユニークな活動は、千住に住んでいる私自身も自慢です。今後も、さらなる発信を重ねていつて欲しいと思いました。

「テーマ◎歴史・文化のまちづくり」

■浅香 孝子 運営委員 まず、200事務局の、千住酒合戦は、大変由緒ある伝統文化だと思います。当時は、身分制度も厳しく、お酒を通して無礼講というのは、大変魅力的な話だったのかと思います。そして、「千住酒合戦200記録集」という大変立派な冊子を作っていたアイデアがたく思っております。この冊子が集大成で終わるのではなく、ひとつの区切り結果報告として、これからも活動を継続していただきたいと思っております。

あだち銭湯文化普及会、本当に意義ある活動です。現在、各家庭にお風呂がある中、足立区内に30以上の銭湯があることは立派なことだと思います。足立区の銭湯は、まさに地域のコミュニティの場であると理解しており、これからも大切な「心の洗濯」の場として存在していつていただければと思います。そして、今回制作いただいた銭湯マップ、こちらも大いに活用していただきたいと思えます。また、勉強会や研修をたくさん行っているということでしたが、外国人が増える2020年に向けて大切なことだと思いますし、内容の充実したさらなる発展を望んでいるところでございます。

■長澤 こうすけ 運営委員 足立区で高齢化が進む中、銭湯が好きだからと、引越してきた若いカップルのお話がありました。なぜ、足立区を選ばれたのか

ということとは分析をされていますか。

■あだち 銭湯文化普及会 分析というところまでは、していないのですが、人と人とのコミュニケーションを実感できる銭湯が足立区には多いというのが、個人的な思いです。

■加藤 仁美 運営委員 ありがとうございます。当トラスト、30年の歴史というお話がございましたが、地域をよくしていく底力というのが、本当にあると、今回実感したところでございます。これまでの活動を行っているところは、他にはないと思います。行政任せになっているところも多く、そういう点でも非常に感銘を受けた会でもございました。



協創のまちづくり、その萌芽となるトラストの活動



中林 一樹 運営委員
明治大学特任教授

西新井大師周辺地区まちづくり協議会

ごみゼロ運動、事故ゼロ運動、行燈祭りなど、誰もが参加しやすいまちづくり活動を通して、一人ひとりがまちを見直す機会を提供し展開されました。今回、新たに特別景観形成地区の申請をされたことは素晴らしいことだと思います。これまでの活動の集大成として大きな花を咲かせようとしているのではないかと思います。

佐野町会・自治会連絡協議会

地下鉄8号線の延伸のPRをのぼり旗という目に見える形にして地域の皆さんに提示されています。地域の皆さんがまちを見直してみ、そのきっかけ作りをされています。やがて大きな成果につながるのではないかと感じております。

梅田BW会

関原中央公園は、1980年代の東京都防災まちづくり防災生活圏モデル事業のモデル地区のひとつです。その歴史のある公園で、今、花いっぱい運動が展開され、たくさんの方が公園に集まっています。地域防災を考えて作られた公園が、このような局面で人々のにぎわいの場になっていることは、素晴らしいまちづくりの継続だと思いました。

足立区多機能サービス連絡会

素晴らしい取り組みだと思います。今は在宅というのが、福祉の分野でも基本であり、まちの中で生活しながら、生涯を全うしていくような取り組みが求められていると思います。今日のお話で、まちへ出るということは、運動だけではいりハビリ効果が高いのだと感じました。同時に、まちには色々な方との出会いがあり、そのことが、心のバリアフリーをまちの中に作るきっかけになるのではないかと思います。例えば、通りがかりの人が、車椅子の方をサポートすることで、物理的なバリアは無くなります。そういう気遣いを足立区民が持つだけで、足立区全体がユニバーサルなまちになります。そんなつながりを作るためにも、まちへ出ることが必要であり、こういう活動が大切だと改めて思いました。

あだち防災プロジェクト

防災をキーワードに、地域の人、いろいろな組織、施設とつながりながら活動している団体です。人口減少、高齢化の今、人のつながりがないと、よい生活のできない時代に、このような出会いのきっかけを作るプロジェクトというのは、重要だと思います。また、防災をキーワードにしているところに特色があり、素晴らしい活動だと思いました。

竹の塚中学校活用推進委員会

中学生の皆さんが作った「竹坊」を、くまモンにも負けないキャラクターにしたと話されました。竹の塚警察との連携もあり、生みの親である中学生の皆さんと地域がつながることで、地域で愛されるキャラクターとして育っていくのではないのでしょうか。

千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会

今回の報告をうかがって、この団体がトラストに登場して以降、ますます大きく展開したなと感じました。都市問題として空き家は、大きな課題です。色々な形で利用していくことが必要だと思います。また、まちを元気づける多様なイベントを展開されているということをご紹介いただき、今後も、色々な形で連携し広がってほしいなと思いました。

200事務局

200年前の千住酒合戦を再現したイベントを記録集にまとめ、新たな活動の核とし、千住での組織間連携の拠点作りをしたいとお話がありましたので、今後の展開が楽しみですなと思いました。

あだち銭湯文化普及会

地域コミュニティとして発達する銭湯の役割は、日本文化の中でも非常に特徴的なものがあると思います。銭湯の数が減りつつも、調査・研究、普及・啓発、人材育成の活動が、銭湯の後継者作りにもインパクトを与え、今までにはない銭湯の新しい文化が生まれつつあるのではないかなと思います。

協創のまちづくりへ

頭に足立区から、新しい基本計画、協創のまちづくりのお話がありました。似た言葉で、協働、みんなで働くがあります。これは、多様な主体が、役割を分担して、それぞれの持てる力を合わせることで、異なる役割や力を持つ人の協働で、まちづくりを進めていくことが、協創のまちづくりにつながるのではないのでしょうか。今日のご報告を伺っていると、現在、皆さんが行っていることが、まさに協創のまちづくりのモデルであり、これを展開していけば、基本計画で意図する協創のまちづくりが実現できるのではないかと、そんな活動の種を見せていただいたように思います。

もうひとつ、今日は連携という言葉がたくさん出てきました。人口減少時代に入り、まちを元気にするのは連携です。区民が「かすがい」になり、まちとまち、まちと学校、まちと企業、まちとさまざまな団体、そういう多様な連携を進める協創のまちづくりが、可能なのではないかと、いうことを今日のご報告から感じることで、ききました。今後もトラストを活用していただき、足立区のまちづくりが前進することを祈念すると同時に大きな可能性を感じることで、できました。





小川 清美 信託管理人
税理士

本

日の皆様のご報告を聞いてみると、ひとつのことをやり通したという達成感が感じられました。

先日、NHKで千住ヤッチャイ大学の活動が取り上げられていました。今後、この団体がどのように活動していくのか、皆さんが注目しているのではないのでしょうか。助成がなくなったら終了とならないよう、今後も活動を活発にしていきたいと思っております。

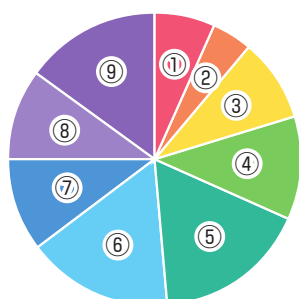
2年前には、やはり助成を受けた五色桜の会が、NHKで取り上げられました。このようにトラストの活動が、全国放送で取り上げられるのは、皆さんの活動が評価されているということだと思っております。

各団体の皆さんが本来の仕事と離れ、ボランティアで地域の活動に従事していることには本当に感謝しております。また、毎年、成果報告会の開催にあたり東京電機大学関係者の皆さまには大変なご協力をいただき感謝申し上げます。

信託財産は、今後も運営委員の先生とともに有効に使ってまいりますので、よろしくお願いたします。各団体のますますの御隆盛を祈念いたしまして閉会のあいさついたします。

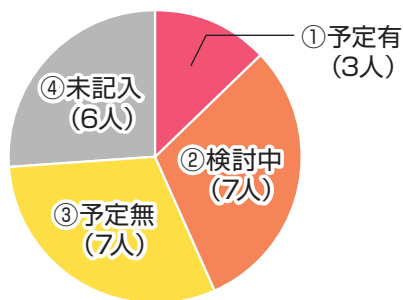
アンケート集計結果

■ 1. 「成果報告で良かったもの、参考になったものは」(○複数回答可)

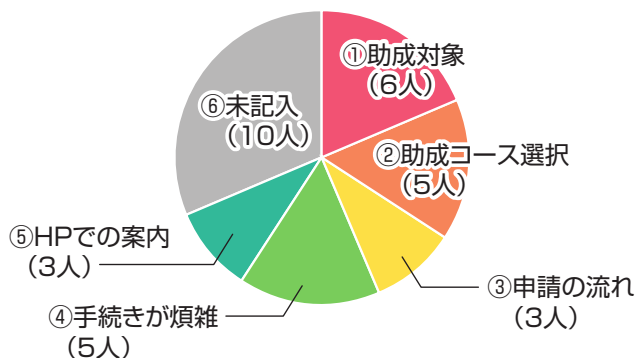


- ①西新井大師周辺地区まちづくり協議会 (6人)
- ②佐野町会・自治会連絡協議会 (4人)
- ③梅田BW会 (8人)
- ④足立区多機能サービス連絡会 (10人)
- ⑤あだち防災プロジェクト (15人)
- ⑥竹の塚中学校活用推進委員会 (14人)
- ⑦千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会 (9人)
- ⑧200事務局 (9人)
- ⑨あだち銭湯文化普及会 (13人)

■ 2. まちづくりトラストを利用した活動をお考えですか。



■ 3. トラスト申請を行うにあたって気になるところ



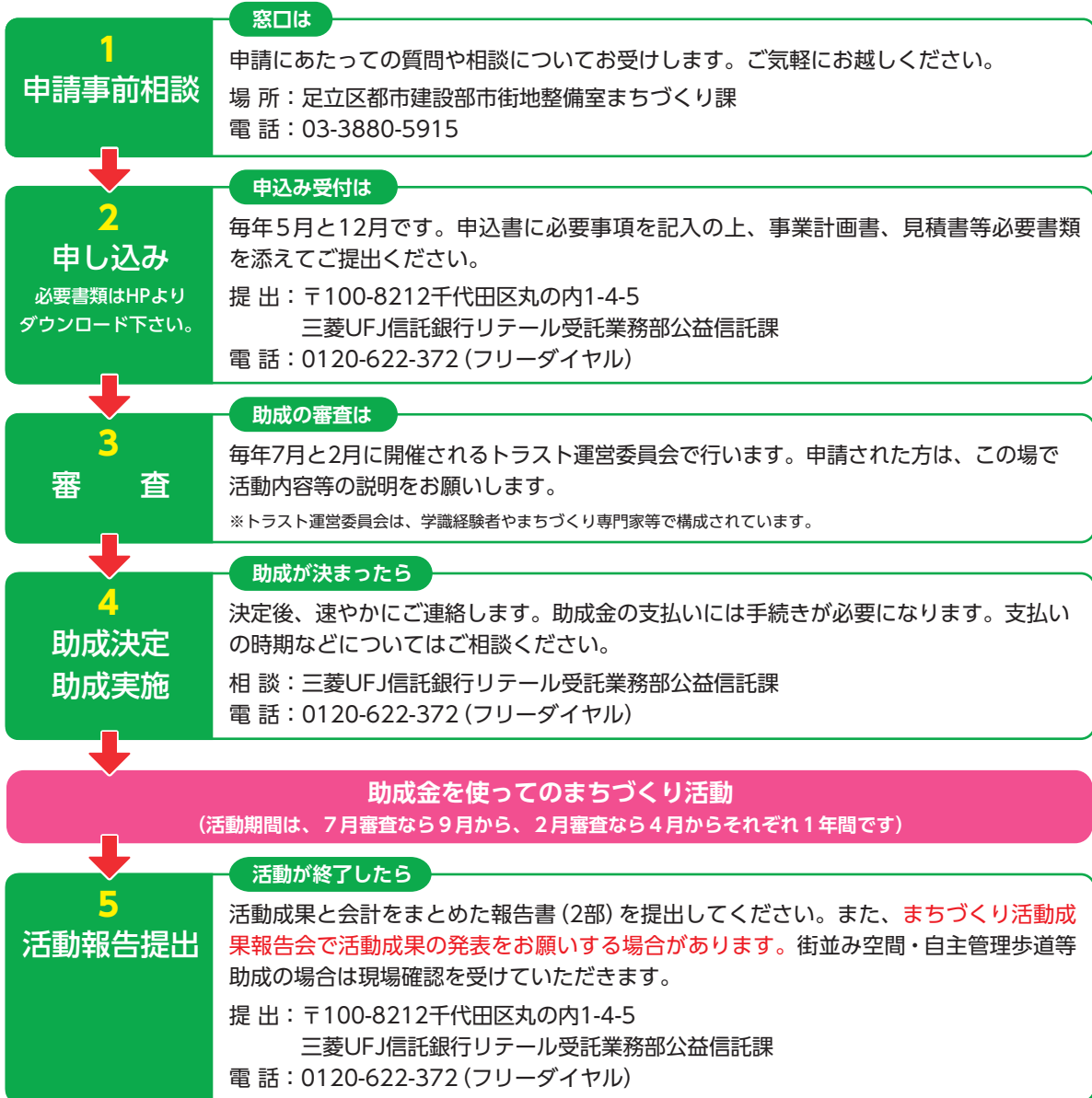
■ 今回の成果報告会について (抜粋)

- ・自分たちが住む「まちづくり」を区や政治に任せず自分たちで考え、良い町にするきっかけになるのでとてもありがたいです。
- ・対人(ソフト)面の利用も出来て、とても良い。「まち」は建物で成り立つのではなく、人の繋がり営みによって出来ていると思うので。私たちの団体は、トラスト3年目で最後の年です……が、この三年間で学んだこと体験したことを今後も生かしていきたいと思う。
- ・出た意見の中で、「まちづくりトラスト」の活動をPRしやすいように区がもっと協力して欲しい。告知チラシをもっと区の施設に配布しやすくして欲しいです。
- ・私たちの団体は防災をテーマにした活動を行っています。トラスト助成を受けた活動を、このような形で発表できる場があるのはとてもうれしい!! もっともっと多くの区民の方にも来ていただきたい。
- ・学校と地域がもっと密接につながっていくことで、さらに地域の活性化が実現されるのかなと思いました。早い時期に子供が地域のことを考え、地域の為に活動できる経験を積ませてあげ、未来の地域活性化を担う人材を育てていきたいと考えています。

トラストを受ける条件

- ① 営利を目的としない活動であること
- ② 団体の運営や代表者の選任方法が、会則、規則等で決まっていること
- ③ 同一内容の企画で区又は区の関係団体から助成を受けていないこと
- ④ 宗教・政治活動を目的としない活動であること
- ⑤ 社会の秩序や安全に脅威を与え、社会の発展を妨げる団体及びその構成員、個人でないこと

トラストの申請方法



活動成果の発表やPRを行う場合は、トラスト助成を受けた旨を表示して下さい。

代表受託者(申請書類提出先)

三菱UFJ信託銀行
リテール受託業務部公益信託課

フリーダイヤル
0120(622)372

〒100-8212 千代田区丸の内1-4-5

申請相談

足立区都市建設部市街地整備室
まちづくり課管理調整係

03(3880)5915(直)

〒120-8510 足立区中央本町1-17-1

あだちまちづくりトラスト 検索